

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 30 年 7 月 2 日	
所属部局・職	野生動物研究センター・修士課程学生
氏名	瀧 雄渡

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)
日本、屋久島
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)
ヤクシマザルの調査(屋久島実習)
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)
平成 30 年 5 月 19 日 ~ 平成 30 年 5 月 25 日 (7 日間)
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
京都大学霊長類研究所、半谷先生
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。
今回の実習では、ヤクシマザルの調査を行った。この研究の目的は、ヤクシマザルの分布に対する人間活動の影響を調べることであった。 5月20日から5月22日の期間に、林道上でライトランセクトを行い、糞、直接観察、鳴き声によるヤクシマザルの発見をGPSを用いて記録した。また、ゲノム実習のための糞サンプルを採取した。 5月23~24日には、QGISを用いて発見データの解析を行った。これにより、植林地や畑などの異なる土地利用、あるいは居住区域からの距離や高度がヤクシマザルの在不在にどのような影響を持つのかを調べた。 結果としては、居住区域からの距離が大きいほど発見が多くなっており、このことは人間活動が島内の個体の分布に影響を及ぼす可能性を示唆している。 この機会を得て、ライトランセクトを通じた糞サンプルの採集、及びQGISを用いた発見データの解析の方法を学んだ。 また、今回サンプリングを行い地理的情報を扱った経験は、修士課程で行うクビワオオコウモリの遺伝的多様性に関する研究において重要となるだろう。

図 1. 子連れのヤクシマザル

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書
(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)



図 2. 口永良部島。屋久島から見える、クビワオオコウモリの生息地のひとつ

6. その他 (特記事項など)